

令和4年度公共事業再評価調書

担当課名 道路整備課

番号	9					
事業名	道路改築事業		事業主体	静岡県		
箇所名	イッパンケンドウ 一般県道 タカスワダセン 高洲和田線		関係市町	焼津市		
事業採択年度	平成 25 年度		計画期間	平成 25 年度 ~ 令和 9 年度		
用地着手年度	令和 2 年度		工事着手年度	令和 4 年度		
再評価理由※	事業採択 (H29) 後 5 年間に経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~R2年度	R3年度	R4年度見込	計
	2,000		115	70	83	268
事業概要	<p>(1)事業目的 一般県道高洲和田線は、藤枝市高洲から焼津市田尻に至る延長約6.7kmの路線である。本事業は、このうち焼津市中新田の延長約0.5kmの区間について、都市計画道路小川島田幹線の一部をバイパスとして整備するものである。 本事業により、今後整備が予定されている都市計画道路志太中央幹線とのネットワークにより市町間の連携強化が図られるほか、現道からバイパスへの交通転換により、歩行者の安全や円滑な交通の確保が期待される。</p> <p>(2)事業内容 延長：538m 計画幅員：車道13.0m(全幅25.0m) 車線数：4車線(バイパス)</p>					
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・焼津市の製造品出荷額は、事業開始時点から約2割増加している(H25→R1)。 ・(都)小川島田幹線に連絡する島田市内の(都)東町御請線が平成28年度に開通した。 ・当該区間に交差する市道について、焼津市が交付金事業で道路改良(線形改良及び歩道設置)を実施中である。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○現時点(R4)での費用便益分析結果：B/C=3.2、EIRR=12.2% ・総便益(B)=57.6億円 (走行時間短縮便益 46.5億円、走行経費減少便益 9.8億円 交通事故減少便益 1.3億円) ・総費用(C)=18.0億円 (建設投資額 18.2億円、維持管理費 0.2億円、用地残存価値 0.5億円) ○見込まれる効果(定性的な効果) ・バイパス整備に伴い、通過車両が現道を迂回することで安全かつ円滑な交通が確保される。 ・(都)小川島田幹線の一部として志太地域を東西に結び、交通の円滑化に寄与するほか、(都)志太中央幹線とネットワークを形成し、都市間連携の強化や産業の活性化等が期待される。</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和4年度末見込み) 【事業費】 13.4%(268百万円/2,000百万円) 【事業量】 0%(0m/538m) 【用地取得】 39.4%(3,935m<sup>2</sup>/9,983m<sup>2</sup>) ・令和2年度から用地補償に着手し、今年度から工事に着手予定。</p>					
事業の必要性等	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 <input type="radio"/> 視点3による見直し後継続が妥当 <input type="radio"/> 継続は妥当ではない</p>					
【視点2】	<p>店舗や工場等の大型物件について、移転先や補償内容等に係る地権者との交渉に期間を要したため、事業期間を令和9年度まで延伸する。 引き続き、用地補償を進めるとともに、今年度から一部区間で工事に着手する予定である。本事業は焼津市と島田市を連絡する都市計画道路の一端を担うバイパス整備であり、地元の要望が強い路線であるため、順調な進捗が見込め、事業期間内に完成する見込みである。</p>					
今後の事業の進捗の見込み	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 <input type="radio"/> 視点3による見直し後継続が妥当 <input type="radio"/> 継続は妥当ではない</p>					
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>(コスト縮減について) 工事の施工にあたっては新技術・新工法の活用や2次製品の採用を積極的に検討しコスト縮減を図る。</p>					
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を( <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し後継続 <input type="radio"/> 中止 )する。</p> <p>(2)理由 本事業は、広域的な移動の円滑化や地域の交通安全に資するものである。近年、周辺地域における道路の開通や製造業の発展により必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、関連する市道改良の進捗が順調など、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>					

一般県道 高洲和田線

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省 道路局・都市局 令和4年2月)

総括表

I) 総便益 B	57.6 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] － [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	18.0 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	3.21
IV) 経済的内部収益率 E I R R	12.2 %

I) 総便益Bの算出

①各種費用のR12<sup>※1</sup>の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	7.0	1.4	0.2	8.6
整備した場合 B	4.2	0.8	0.1	5.1

便益 A - B	2.8 時間短縮便益	0.6 経費減少便益	0.1 事故減少便益	3.5
-------------	---------------	---------------	---------------	-----

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(R9～R58)	46.5	9.8	1.3	57.6

… B

II) 総費用Cの算出

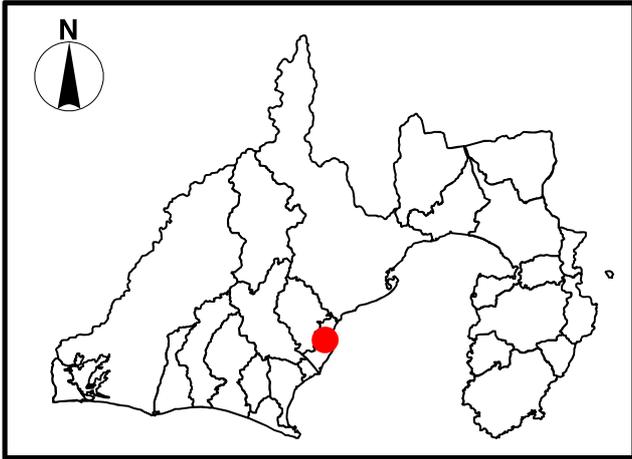
[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
20.0	18.2	237.3	0.2	0.5	18.0

… C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

# 位置図



## 一般県道 高洲和田線（焼津市中新田地内） バイパス事業区間

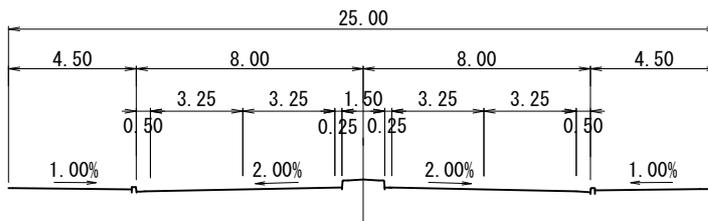


※本資料には「地理院地図」(電子国土web)を編集・加工した地図を使用

## ■ 計画概要

整備延長:  $L=0.5\text{km}$   
 規格: 第4種第1級  
 設計速度:  $60\text{km/h}$   
 幅員: 車道 $W=6.5\text{m}$   
       全幅 $W=25.0\text{m}$

## ■ 標準横断図



# ■整備効果

## 【安全で円滑な交通の確保】

### 周辺地域の状況

- ・現道に東西方向の通行車両が集中し、慢性的な混雑が発生。
- ・バイパス区間と市道の交差点は見通しが悪く、5年間で6件(H28～R2年度、うち5件は出合頭)の交通事故が発生。

### 期待される整備効果

- ・現道を通る車両の転換が図られ、円滑な交通を確保。
- ・バイパスの整備及び交差点改良により、車両及び歩行者の安全性が向上。

### 慢性的な混雑が発生



### 交差点の見通しが悪い



バイパス整備に伴い、通過車両が現道を迂回することで安全かつ円滑な交通が確保される。



# ■整備効果

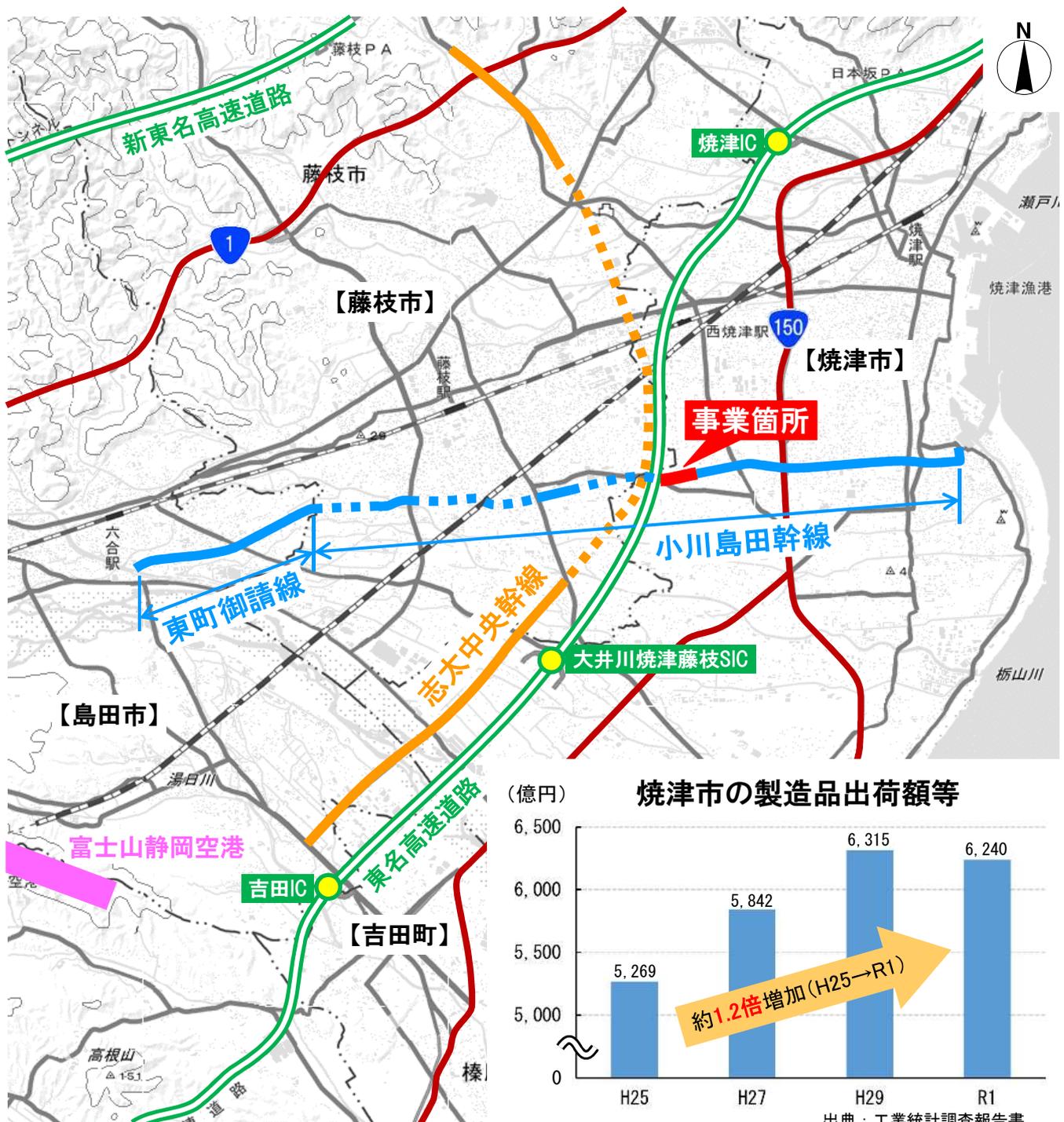
## 【広域ネットワークの強化、産業の活性化】

### 周辺地域の状況

- ・広域交通の利便性等を背景に、焼津市の製造品出荷額は増加傾向。
- ・志太地域には東西方向の幹線道路が少なく、道路の混雑解消や都市間連携の強化が課題。

### 期待される整備効果

- ・(都)小川島田幹線の一部として志太地域を東西に結び、交通の円滑化に寄与するほか、(都)志太中央幹線とネットワークを形成し、都市間連携の強化や産業の活性化等が期待される。



# 事業概要

## 前回からの変更点・理由

	前回(H29)	今回(R4)	主な変更理由
①計画期間	H25～R4	H25～R9 (+5年)	店舗や工場等の大型物件について、移転先や補償内容等に係る地権者との交渉に期間を要したため、事業期間を令和9年度まで延伸する。
②全体事業費	2,000百万円	2,000百万円 (変更なし)	—

